

〈中学校〉音楽科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 場所 音楽演奏室
2年〇組 〇名 (男子〇名 女子〇名) 授業者〇〇〇〇

1. 題材 速度と強弱の変化する曲想を理解し、表情豊かに歌う

教材 「花の季節」 芙龍明子 日本語詞 / B.フォミー作曲 / 佐井孝彰編曲 (本時主教材)
「サンタ ルチア (Santa Lucia)」 ナポリ民謡 / 小松清日本語詞

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は中学校学習指導要領 [第2学年及び第3学年] A表現の(1)ア、イ、ウとB鑑賞の(1)ア、イに関連する内容である。音楽を構成する要素には、リズム、メロディー、ハーモニーがあり、表情をつける要素には速度、強弱、音色、フレーズ等がある。それらの要素は、総合的に関連し合っ

(2) 教材について

「花の季節」はロマニー民謡である。ロマニーの音楽の特徴の一つは、ゆるやかな前半部分と急速な後半部分から構成されることである。この曲では、*p* を主体として語りかけるような前半部分と *mf* で始まり *mp* からクレシェンドをかけ *f* で盛り上がる後半部分との対比を工夫し、その効果を感じて歌う楽しさを味わわせたい。

「サンタルチア」はナポリ民謡である。この曲では、カンツォーネの特徴である、大らかで豊かな表現の中で、4小節ごとに代わる *mf*, *mp*, *f*, *mp* の強弱の変化やフェルマータ、テヌートによる速度のゆれなどを工夫し、その効果を感じて歌う楽しさを味わえるようにする。

(3) 生徒の実態と指導上の工夫

生徒は、少しずつではあるが、伸び伸びと歌えるようになってきている。また、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとする生徒も増えてきた。そこでロマニー音楽やカンツォーネの特徴を感じ取り、歌唱表現に生かすことができるようにするために、ジプシーヴァイオリンの演奏やカンツォーネの演奏を鑑賞させる。また、小グループで話し合い、主体的・協働的に速度や強弱を考えた表現づくりをさせることで、その効果についての感受や理解が深まるようにする。

3. 題材の目標

- (1) 二つの民謡の曲想の変化を生かした歌唱表現をするために必要な呼吸、発声、言葉の発音などの技能を身に付ける。
- (2) 速度や強弱の変化による曲想の変化を感じ取りながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 二つの民謡の曲想の違いに関心を持ち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組む。

4. 題材の評価規準

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----|--|--|---|
| 趣旨 | <p>知 二つの民謡の音楽を形作っている諸要素を知覚し、背景や楽器などの特質を理解している。</p> <p>技 二つの民謡の曲想の変化を生かした歌唱表現をするために必要な呼吸、発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱している。</p> | <p>思 二つの民謡の速度や強弱の変化、異なる曲想を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を受容しながら良さを味わって聴いている。</p> <p>表</p> <p>① 速度や強弱の変化を知覚し、異なる曲想を感受しながら、どのように歌唱で表現するかについて工夫している。</p> <p>② 曲の構成を理解し速度や強弱の変化を生かして歌っている。</p> | <p>態 二つの民謡の速度や強弱の変化による表現効果に関心を持ち、思いや意図をもって活動に取り組んでいる。グループの考えを聞き合い、速度や強弱の変化を表現するための創意工夫をしている。</p> |

5. 指導と評価の計画（全4時間）

| 時間 | 各時間の目標 | 学習活動 | 学習活動における評価の観点及びその趣旨との関連 | 評価方法等 |
|-----------|---|--|-------------------------|--------------|
| 1 (本時) | 「花の季節」の歌唱を通し速度や強弱の変化を感受する | 「花の季節」を歌唱し、ロマニー音楽を聴く | 知 思 態 | 活動の観察とワークシート |
| 2 | 「サンタルチア」の速度や強弱の変化を感受しながらどのように表現の工夫をするか考える | 「サンタルチア」を歌唱し、カンツォーネを聴く | 知 思 表 態 | 活動の観察とワークシート |
| 3 | グループで速度や強弱の付け方について思いや意図を話し合い、表現を工夫する | グループで曲を選び、速度や強弱の付け方について話し合い協働して表現を工夫する | 知 表 思 表 態 | 活動の観察とワークシート |
| 4 | グループで考えた曲想で表情豊かに歌唱表現をする | 「花の季節」と「サンタルチア」のグループ発表 | 知 表 思 表 態 | 活動の観察と演奏聴取 |

6. 本時（1／4）

(1) 目標

ロマニー音楽の特徴を歌唱や鑑賞により感じ取り、速度や強弱の変化を工夫して歌うことができる。

(2) 展開

| 時間 | 学習内容 | 学習活動 | 評価規準・方法 |
|-----|--|---|-------------------|
| (分) | ◆「花の季節」の歌唱と鑑賞を通し速度や強弱の変化を理解し曲想を味わおう | | |
| 15 | 本時のねらいと学習内容確認 1. 発声練習 2. 「花の季節」を歌う。 ①範唱CDを聴く。 ②フレーズごとに歌う ③曲を通して歌う。速度や強弱の変化を意識させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 豊かな響きの声が出せるよう、首や肩の力を抜き、横隔膜の支えを意識した発声をさせる。 旋律をしっかりとつかむことができるように、歌いやすいフレーズで音取りを行い、部分練習をしたりする。 通して歌うことで速度や強弱の変化を感受させ、曲全体の流れを注目させる。 | 技〈演奏 観察〉 |
| 10 | 3. ロマニーの音楽を聴く。 ①「花の季節」（器楽） ②「チャルダッシュ」（モンティ作曲） ③感想を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 映像を見せることで、自由にのびのびと演奏している様子や、速度の変化を楽しみながら演奏している様子や、ロマニー音楽の特徴を確認する。 気づいたことや感じ取ったことをクラス全体で共有する。 | 思〈観察〉 態〈観察〉 |
| 20 | 4. 速度の変化や強弱を工夫して歌う。 ①部分練習 〈前半〉ゆったりと少し速めに 〈後半〉はじめから速くだんだん速く ②曲を通しての練習 | <ul style="list-style-type: none"> 前半部分のパターンと後半部分を2パターンずつ歌い、曲想の違いを比較により感受させる。さらに、前後半のパターンを組み合わせることで、いろいろな曲想表現ができ、それぞれにおもしろさがあることを比較する。 自分だったらどう表現するかという視点を持たせる。 | |
| 5 | 5. 本時のまとめをする。 ・ワークシートに記入 次時の確認・予告 | <ul style="list-style-type: none"> 表現で創意工夫した点や生徒自身の歌唱表現の変化について記述する。 | 技 活動の観察とワークシート |